

授業科目	成人看護学概論	担当教員	専任教員☆ ①鬼頭 真左子 外部講師☆ ②堀部 雅子 ③池戸 亜紀 ④中川 千草	単位数	1	時期	1年次 4月～7月	DP	1
			時間数	30					
目的と目標	<p>ライフサイクルにおける成人期の位置づけと成人期にある人の健康問題を理解し、成人期にある人の健康を支援するための基本的な考え方について学ぶ。</p> <p>1 成人期にある人のライフサイクルから見た特徴について理解できる。</p> <p>2 成人各期における健康問題の特徴を理解できる。</p> <p>3 成人期にある人の人口統計の動向と、健康保持増進、疾病予防のための保健活動を理解できる。</p> <p>4 健康障害をもつ成人を支援するための基本的な考え方がわかる。</p>								
回数	学習課題	内 容			方 法	担 教 員			
1	成人各期の特徴と健康問題	(1) 人の一生における成人期の位置 (2) 成長・発達過程から見た成人の特徴 ①青年期 ②壮年期 ③向老期 (3) 成人を取り巻く社会環境と成人の生活 ①働くことと生活 ②家族との関係 (4) 保健統計から見た成人の健康の動向 ①わが国における人口構造の概要 ②成人保健に関係する人口構成 ③死亡・死因の状況 ④受療状況 (5) 成人各期に特徴的な健康問題 ①青年期の健康問題 ②壮年期の健康問題 ③向老期の健康問題 (6) 健康問題に影響を及ぼす生活習慣・生活環境 ①飲酒 ②喫煙 ③食生活の乱れ ④運動不足 ⑤ストレス ⑥睡眠時間・労働時間 (7) 成人期にある人が健康障害をもつことの意味			講義 グループ ワーク	専任教員 (鬼頭真左子)			
2									
3									
4									
5									
6	成人を対象とした保健・医療・福祉政策	(1) 健康保持増進、保健活動			講義	専任教員			
7		(2) 成人を対象とした保健・医療・福祉政策 ①健康づくり対策 ②生活習慣病対策 ③疾患対策 ④労働者の健康対策 ⑤自殺対策 ⑥障害者を支える制度・対策			講義	外部講師 (堀部雅子)			
8		(3) 成人を対象とした健康管理の実際 ①産業現場における健康問題と健康管理の実際			講義	外部講師 (池戸亜紀)			
9		②看護師の健康問題と健康管理の実際			講義	外部講師 (中川千草)			

回数	学習課題	内 容	方 法	担当教員
10 11 12 13	健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点	(1) 成人看護学に用いられる理論と概念 ①患者の権利と権利擁護 ②セルフエフィカシー ③アンドラゴジー ④エンパワーメント ⑤多理論統合モデル ⑥家族システム理論	講義 グループ ワーク	専任教員 (鬼頭真左子)
14 15	成人の健康状態に応じた看護 (3時間)  試験 (1時間)	(1) 健康の保持・増進のための支援 (2) 急性期にある成人の理解と看護 (3) 慢性期にある成人の理解と看護 (4) リハビリテーション期にある成人の理解と看護 (5) 終末期にある成人の理解と看護	講義	専任教員 (鬼頭真左子)
評価方法	筆記試験 100点			
教科書 参考文献	新体系 成人看護学概論 成人保健 (メヂカルフレンド社)			
事前準備や 受講要件等	講義の前には事前課題の提示。 教科書を読んで講義に臨むこと。 指定した期日までに提出すること。			
☆担当教員 の専任経験	①④看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②保健師・助産師として行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③産業保健師としての経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	急性期看護	担当教員	専任教員☆ ①鬼頭 真左子 外部講師☆ ②蟹 恵利加 ③山本 拓巳	単位数	1	時期	1年次 10月～12月	DP	1 3 4
				時間数	30				
目的と目標	急性期および急性期から回復期に移行する対象と家族の特徴を理解し、危機的状態から回復に向けて経過に応じた看護について学ぶ。 1 クリティカルな状態にある対象の特徴と看護の役割が理解できる。 2 クリティカルな状態にある対象の生命維持、苦痛緩和への援助方法が理解できる。 3 急性期にある対象に対する感染予防対策について理解できる。 4 周術期にある対象の特徴と看護が理解できる。 5 周術期にある対象の回復を促進するための援助方法が理解できる。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担 当 教 員			
1	急性期にある対象とその家族への看護	(1) 急性期にある対象とその家族の理解 ①急性期にある対象とその家族の特徴 ②急性期の治療の特徴 ③急性期症状と看護 (2) クリティカルな状態にある対象とその家族への看護 ①クリティカルな状態にある対象とその家族の特徴 ②クリティカルケア看護師に必要な能力 ③クリティカルケア看護の役割			講義	専任教員 (鬼頭真左子)			
2		(3) 循環機能障害でクリティカルな状態にある対象とその家族への看護 ①心筋梗塞の病態理解 ②心筋梗塞でクリティカルな状態にある対象とその家族への看護 ③クリティカルケアにおける看護技術 (心電図・中心静脈圧測定)			講義				
3									
4									
5					講義 演習				
6		(4) 急性期にある対象に対する感染予防対策 ①侵襲的処置による感染の可能性 ②感染予防対策の実際 ア 病棟管理 (管理、消毒、汚物処理など) イ 患者・家族への指導と精神的援助			講義	外部講師 (蟹 恵利加)			
7	急性期から回復期に移行する対象とその家族への看護	(1) 周術期における対象とその家族への看護 ①周術期 (術前・術中・術後) の対象とその家族の特徴 ②周術期 (術前・術中・術後) の対象とその家族への看護 ③麻酔法			講義	専任教員 (鬼頭真左子)			
8									
9	(17時間)				講義	外部講師 (山本 拓巳)			
10		(2) 消化・吸収機能障害により手術を受ける対象とその家族への看護 ①胃癌の基礎知識 ②胃切除術前・後の看護 ③周術期の看護技術 ア 術後の離床 イ 術後の飲水			講義	専任教員 (鬼頭真左子)			
11									
12									
13									
14	(技術演習3時間)				演習				
15					臨床判断				
	試験 (1時間)								

評価方法	筆記試験 100点
教科書 参考文献	<p>1～4回  新体系看護学全書 経過別成人看護学①急性期看護：クリティカルケア（メヂカルフレンド社）  系看専門Ⅱ 成人看護学③循環器、⑤消化器（医学書院）  看護過程に沿った対症看護（学研）  看護に役立つ検査辞典（照林社）  系看 臨床検査（医学書院）</p> <p>5回  写真でわかる臨床看護技術2アドバンス（インターメディカ）</p> <p>6回  新体系看護学全書 経過別成人看護学①急性期看護：クリティカルケア（メヂカルフレンド社）  系看専門Ⅱ 成人看護学⑩アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）</p> <p>7～15回  系看別巻 臨床外科看護総論（医学書院）  ナーシンググラフィカ周術期看護（MC メディカ）  系看専門Ⅱ 成人看護学⑤消化器（医学書院）  看護過程に沿った対症看護（学研）  看護に役立つ検査辞典（照林社）  系看 臨床検査（医学書院）  写真でわかる臨床看護技術2アドバンス（インターメディカ）</p>
準備や 受講要件等	成人期の特徴、急性期の対象の理解と看護、感染の成立・感染防止に関する基本および解剖生理・疾病治療に関する学習をして講義に参加すること（循環器系、消化器系）。教科書を読んで授業に臨むこと。
担当教員 の職務経歴	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

授業科目	慢性期看護の理解	担当教員	専任教員☆ ①鬼頭 真左子 外部講師☆ ②長谷川 雅恵	単位数	1	時期	1年次 1～3月	DP	1 3
			時間数	15					
目的と目標	慢性期にある対象と家族の特徴を理解し、健康的な生活への行動変容とその維持に向けた看護の考え方について学ぶ。 1 慢性期にある人々の特徴を理解することができる。 2 慢性期看護の役割を理解することができる。 3 健康学習支援の必要性がわかり、生活習慣の改善に向けた看護の目標を考えることができる。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1	慢性期にある対象とその家族の特徴と看護の役割	(1) 慢性期にある対象とその家族の理解 ①身体的側面の特徴 ②心理社会的側面の特徴 ア 病みの軌跡 イ 変化ステージモデル (多理論統合モデル) ③家族の理解 (2) 慢性期にある対象とその家族への看護の役割 ①外来医療における看護とその役割 ②入退院支援			講義	専任教員 (鬼頭真左子)			
2 3	治療を継続しながら生活する対象の看護	(1) 内部環境調節機能障害により治療の継続が必要な対象とその家族の看護 ①体液調節のしくみとはたらき ②慢性腎臓病の基礎知識と事例の対象の病態理解 ③慢性腎臓病の対象の看護			講義	専任教員 (鬼頭真左子)			
4		(2) 透析療法を行いながら生活する対象への看護 ②血液透析・腹膜透析の管理 ③自己管理のための生活支援			講義	外部講師 (長谷川雅恵)			
5 6 7	自己管理が必要な対象の理解	(1) 内分泌機能障害により健康学習支援が必要な対象とその家族への看護展開 (目標設定まで) ①糖尿病の基礎知識と事例の対象の病態理解 ②対象理解と看護上の問題の明確化 ③生活習慣改善のための目標設定 (2) 健康学習支援を中心とした看護 ①健康学習支援とは ②認知的領域、情意的領域、精神運動的領域に基づく考え方 ③情報収集と問題の特定をする際のポイント ④看護介入			講義 GW	専任教員 (鬼頭真左子)			
8	試験 (1時間)								
評価方法	筆記試験 80点、 提出物 20点 合計100点 *再試験の場合、筆記試験100点分で評価する。								
教書参考文献	新体系 看護学全書 経過別成人看護学③慢性期看護 (メヂカルフレンド社) 系看 専門Ⅱ 成人看護学⑥内分泌・代謝 ⑧腎・泌尿器 (医学書院) NANDA 看護診断 定義と分類 (医学書院)								
事前準備や受講要件等	成人期の特徴、慢性期の対象の理解と看護および解剖生理・疾病治療に関する学習をして講義に参加すること (内分泌、腎・泌尿器)。 教科書を読んで授業に臨むこと。								
☆担当教員の専修検	①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	慢性期看護の展開	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	2年次 4～5月	DP	1
				時間数	15				3 4
目的と目標	慢性期にある対象の健康的な生活への行動変容とその維持に向けた看護の方法について学ぶ。 1 慢性期にある対象の行動変容のための健康学習支援の具体的な方法を考えることができる。 2 健康学習支援の実践における自己の課題を見出すことができる。 3 セルフマネジメントのために必要な看護技術の方法が理解できる。								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1 2 3 4 5	健康学習支援が必要な対象への看護介入	(1) 内分泌機能障害により健康学習支援が必要な対象とその家族への看護展開（看護計画の立案と実施） ①生活習慣改善のための具体策 ②効果的な教材の作成 ③健康学習支援の実施（ロールプレイング）				講義 演習	専任教員 ( )		
6 7	セルフマネジメントのための看護  (技術演習3時間)	(1) 糖尿病の急性合併症とその対応方法 ①高血糖時の対応 ②低血糖時の対応 ③シックデイの対応  (2) 血糖降下薬の特徴 (3) 看護技術 ①血糖自己測定 ②インスリン注射				講義  演習			
8	試験（1時間）								
評価方法	筆記試験 40点 提出物 40点 レポート 20点 「健康学習支援の実施を通じた学びと健康学習支援の実践における自己の課題」 合計 100点 *再試験の場合、筆記試験40点、提出物40点、およびレポート20点の合計100点分で評価する。								
教科書 参考文献	1～5回 新体系 看護学全書 経過別成人看護学③慢性期看護（メヂカルフレンド社） 系看 専門Ⅱ 成人看護学⑥内分泌・代謝（医学書院） 6・7回 写真でわかる臨床看護技術1アドバンス（インターメディカ）								
事前準備や 受講要件等	<b>事前準備：事前に提示された課題に取り組んで臨むこと。</b> <b>受講要件：科目名「慢性期看護の理解」を履修していること。</b>								
☆担当教員 の専修経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	終末期看護	担当教員	専任教員☆ ①柴山 真由美	単位数	1	時期	1年次 1～3月	DP	1 2
			外部講師☆ ②西村 幸祐 ③住田 俊彦 ④小倉 亮	時間数	15				
目的と目標	<p>終末期をめぐる概念や考え方を理解し、終末期にある対象およびその家族への看護について学ぶ。</p> <p>1 終末期をめぐる概念や考え方が理解できる。</p> <p>2 終末期医療におけるチーム医療の重要性について理解できる。</p> <p>3 終末期にある対象の全人的苦痛とその看護について理解できる。</p> <p>4 終末期にある対象の家族の特徴とその看護について理解できる。</p>								
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員		
1	終末期にある対象とその家族の理解	(1) 終末期やターミナル、そして緩和ケアの概念とエンド・オブ・ライフケアの考え方 (2) 終末期にある対象と家族の特徴 (3) 終末期における看護の機能・役割				講義	専任教員 (柴山真由美)		
2 3	終末期医療と看護の実際	(1) 終末期医療に関する制度 (2) 終末期の医療の実際 ①患者の意思に沿った終末期医療 ②チーム医療の実際				講義	外部講師 (西村幸祐)		
4 5		(3) 終末期における対象とその家族への看護の実際 ①全人的苦痛と緩和 ②家族のケア (4) 緩和ケアにおける看護の役割・看護の専門性				講義	外部講師 (住田俊彦)		
6		(5) 疼痛コントロールの実際				講義	外部講師 (小倉 亮)		
7	終末期医療における倫理的課題	(1) インフォームド・コンセントにおける看護師の役割 (2) 死をめぐる倫理的問題				講義	専任教員 (柴山真由美)		
8	試験 (1時間)						専任教員 (柴山真由美)		
評価方法	筆記試験 100点 (1・7回:40点、2・3回:20点、4・5回:20点、6回:20点)								
教科書 参考文献	新体系 看護学全書 経過別成人看護学④ 終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア (メヂカルフレンド社)								
事前準備や 受講要件等	成人期の特徴および終末期の対象の理解の復習をして講義に参加すること。 教科書を読んで授業に臨むこと。								
☆担当教員 の専務観	①③④看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医師として医療機関で緩和医療認定医として勤務した経験を活かした授業展開をする。								